

パネルディスカッション 国大HCD 平成28年10月29日実施

教育人間科学部

「パネルディスカッション」

午前11時45分～午後1時15分

- 1 テーマ 私の進路はこうして決めた
～卒業生、在校生の立場から～
- 2 コーディネーター
横浜国立大学教育人間科学部長
杉山 久仁子教授



3 パネラー

- ・新人教諭 藤沢市立片瀬小学校
宮治 有斗(平成26年卒)
- ・企業関係
森原 早苗(平成23年卒)
- ・学校教育課程 4年 安達 陽介
- ・人間文化課程 4年 八木茉莉香



司会 門井富士夫氏(友松会副会長)

次 第

開会のことば (司会・略)

○パネルディスカッション(敬称略・要約)

- ・杉山 自己紹介をお願いします。
- ・八木 大学4年で卒業後は一般企業に就職し関西にある鉄道関連会社に勤務します。
- ・安達 大学4年で、国語科書道ゼミで書道の勉強をしています。春から横浜市の小学校に勤務します。
- ・森原 卒業後はアニメイトに就職。2年半で転職し、小学館の出版社で少女漫画の編集をしています。
- ・宮治 卒業後1、2年は予備校で講師をし、今は片瀬小学校で教員をしています。
- ・杉山 在学生の就職先は決まっていますが、進路について紹介してもらいます。
- ・八木 就職活動は3月1日から考え始めました。2月から何となく考え出し、きちんと決めたのは4月位。自分は旅行が好きなので、観光に力を入れている鉄道会社を選びました。
- ・安達 小学5年の担任にあこがれ、小学校の先生になりたかった。大学3年3月より進路について考えました。必ず横浜市の先生になること、情熱のある人ということで、大学の推薦をいただきました。大学の4年間、しっかりやってきたことが今に結びついていると思います。
- ・杉山 社会人のお二人は、現状も踏まえて話してください。
- ・森原 漫画が大好きで、高校からクリエイ

ーターになりたくて大学を選びましたが、自分はクリエイターに向いていないと感じ、出版社に出入りしました。就活してアニメイトに入ったが、転職して漫画の編集をすることにしました。

- **宮治** 在学中に児童相談所で夜間指導員、また4年間予備校で英語を教えたことが大きく、予備校に就職しました。しかし、小学校教育への夢が捨てきれず、教員になることにしました。計画性を持ってやってきたわけではありません。
- **杉山** 4年間勉強して立派な社会人になることが大切です。大学での学びと社会人としての学びで、こんな経験が生きているという事を話してください。
- **八木** 夢まっしぐらではなく、大学に入った時は、鉄道会社に入るとは思いませんでした。大学生活では面白いことに飛びついてやっていたが、一つのことに関わっているタイプではないので、自分に向いている会社を選びました。
- **安達** 大学4年間の学びでは、全然足りない気が付きました。書道ゼミの青山先生との出会いが一番大きかったです。筆を持つと震えますが、字を上手に書きたいという思いがあり、学びとは何かということに気付きました。
- **森原** 大学で学んだことは、文章力と広い関心です。後悔はもっと遊んでおけば、人間的な厚みが出たのではないかと思います。
- **宮治** 学生の時は、指導案を書く意味がわからなかったが、今は振り返りができとても大切だと思います。児相や予

備校での経験では、子どものバックグラウンドを考えるようになりました。

心理学の有元先生のゼミでは、自分も成長していける環境が教師だと魅力を感じました。

- **杉山** 卒論について話してください。
- **森原** 漫画について書き、文章を沢山書くことを要求され、良い経験になりました。少女漫画はどう変わったかという内容です。
- **宮治** 「教授経験のあるなしのインタビュー」を卒論のテーマとしました。授業に対して、自分だったらという目が大切だと思います。
- **八木** テーマは「家族」に焦点を合わせて書くことにしました。何が家族なのか、ヘーゲルとからめてやりたいと思っています。
- **安達** 書字指導を書きたいと思っています。字を上手く書きたいと思う子は多いと思い、どのように指導したら上手く書けるかを考えています。
- **杉山** 保護者や先輩から質問がありますか。
- **福島** (39年卒) 宮治さんは、塾と学校教員という貴重な経験をされていますが、塾と学校の教育は違いますか。
- **宮治** 塾と学校の教育は違うと思います。学校教育は学ぶ意欲を付けさせなくてはならない。学ぶ意欲のない子どもへのアプローチや、子どもの目の色が変わった時、やりがいを感じ、学校教育は大事だと思います。
- **中村** (37年卒) 国語科でした。片瀬小を卒業し77歳です。教員で、今も国語を教えています、楽しくて一度も教員

を辞めたいと思ったことはありません。宮治先生は自分がやりたいことを決め、スタートされたことが素晴らしい。教室に入る時、わくわくし奮い立ちます。授業の核となる部分は教科を総合学習化して、生きる力を付けることです。若い皆さんの前途洋々とした意気込みが聞け、エネルギーを貰い嬉しかったです。

- **学生4年** 宮治先生にお聞きしたい。小学校の先生になりたくて転職されたそうですが、何か決定的なことがあったのですか。
- **宮治** 母が夏期講習時に手術をしました。いよいよ父母はそういう年齢になってきて、いざという時に動けないなと思ったのが、公教育へと向かったきっかけでした。公教育はバックアップの体制がきちんと整っているからです。
- **保護者** 子どもは人間文化課程で学んでいます。お話を聞かせていただき安心しました。いい大学に入ったと思います。子どもも、このような話を聞いて、参考にしてもらいたいと思いました。感激しました。
- **八木** 母からは「まさか、一般の会社に就職するなんて思わなかった」と言われました。大学3年の6月に就職説明会を確認しました。就職については、やらざるを得なくなる時はやるので、思いつめなくても大丈夫だと思います。
- **野村** (45年卒) 森原さんに漫画を書くということと、文章を深く学ぶということとどのように結びついているのか伺いたい。
- **森原** 本が好きだと自覚したのは、高校

の時です。国語で「羅生門」の続きを書くという授業で、先生から褒められました。学生時代から、難しいことは書けず、面白いことを追求して書いているので、漫画は自分には向いていると思います。

- **A** (45年卒) 38年間小学校の教員をし、その後児相の保護所に勤めました。近くの小学校ですが、新採用の一人は退職、もう一人は学級担任を降りました。総合すると打たれ弱いのではないかということです。現職の宮治先生と今後先生になれる安達さんに、「打たれ弱い」「打たれ強い」ことについてどう思われるか伺いたいです。
- **安達** アシスタントティーチャーをやっていますが、そこの校長先生からそのような話を聞きました。想定外のことになると対処する力がないのかと思います。理想通りにいかなかったり、保護者に何か言われたりすると嫌になるのかと思います。
- **宮治** 保護者から何か言われると、落ち込んでしまうのではないかと。仲間と情報を共有していくと緩和されると思います。自分一人で完結しようとするのは駄目だと思います。保護者が多様化しているので大変な時代です。理想と現実が大きく離れていますが、その場の子どもたちをどうしたいかという思いを大事にすることだと思います。
- **杉山** 学校教育課程と人間文化課程との二つの課程は、全く性質は異なります。人間文化課程長の室井先生からもお話をいただきます。
- **室井** 来年度から新しく都市科学部がス

スタートします。個人的には大学とは、自由と多様性が大切だと思います。いろいろな学生と教員がいて、お互いに刺激し合うことです。私は教育学部の頃からいますが、これから全く多様性が失われるのではと心配しています。森原さんのいたマルチメディア文化課程は12年で人間文化課程になりましたが、ユニークな学生がいて、今いろいろ活躍して、誇りに思っています。人間文化課程はまだ3学年までいます。保護者の方でご心配な方は相談にのります。

- **杉山** 学校教育課程と人間文化課程は元々一緒に交流しながらやっていくということでしたが、時がたち、それぞれ独立した課程になりました。教員養成の方は、教員になる数が少なく、文科省から役割を果たしていないと言われました。来年度から教育学部に戻ります。自由な時間や自分で発見して行く時間も必要で、打たれ強い力のある教員を輩出しなければならないと思っています。
- **OB** 打たれ強い先生になるためのカリキュラムはあるのですか。
- **杉山** 教育委員会の方からも、すぐ辞めない人をおくってほしいと言われます。打たれ強いという意味をきちんと解釈しないといけない。他の人に相談できず、自分で抱え込んでしまう場合があります。大学で考え方が違う場合でも、コミュニケーションをとることが大事で、授業の中や授業以外の活動の中で力をつけていくことです。
- **OB** 本人に任されるということですね。

そうなると、今までと変わりがなく、そういうことが続くということです。どういうことをサポートすることだと思いますか。

- **杉山** 違います。大学の授業は昔と違い、ディベートもしますし、グループの中で学び合いもします。
- **OB** では、辞められた方は、国大生ではないということですね。
- **杉山** それは、わかりません。データはありません。
- **OB** 最終的には本人の気持ちです。でも「うちの学生は少ないと自信を持って言えます」と言ってくだされば、我々は安心できます。
- **杉山** そういうことでしたら言えます。今日はありがとうございました。

<閉会の言葉(司会・略)>



会場の様子